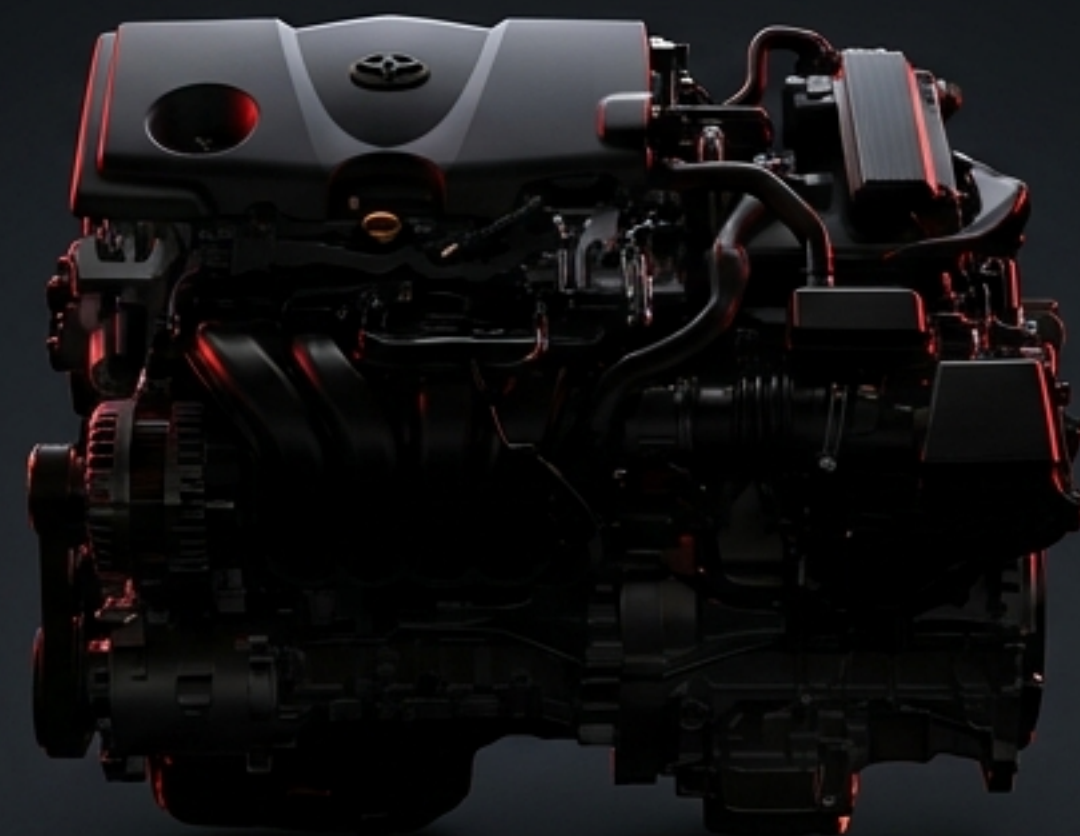


『時代遅れのトヨタは消える』からの大逆転

豊田章男が「EV一本化」に賭けなかった真実と、日本モノづくりの底力



[\[▶ YouTubeで本編レポートを見る\]](#)



世界中から「最下位」と
冷笑された企業が、
なぜ世界最高の利益を
叩き出したのか？

環境団体による評価「**10/100点**」
(世界10社中、最下位)。

メディアの烙印：
「時代に取り残された恐竜」
「脱炭素への最大の障壁」

営業利益「**5兆3529億円**」
(日本企業史上初の5兆円超え)。

世界販売台数「**1,132万台**」
(6年連続世界1位)

 [\[YouTubeで詳細を見る \]](#)

欧州が引いた「悪魔の境界線」

二酸化炭素(CO2)の削減

罨:「炭素」ではなく
「エンジン」を禁じた。

「2035年以降、
エンジンの販売
を全面禁止」

- これは地球環境のためだけではない。
- 日本企業が圧倒的な優位性を持つ「ハイブリッド技術(HEV)」を、力づくで土俵から追い出すためのルール変更(ゲームチェンジ)だった。

[\[YouTubeで詳細を見る \]](#)

孤立無援の決断と「550万人」の命脈

“「カーボンニュートラルにおいて、私たちの敵は『炭素』であり、『内燃機関』ではありません。」—— 豊田章男(2021年)”

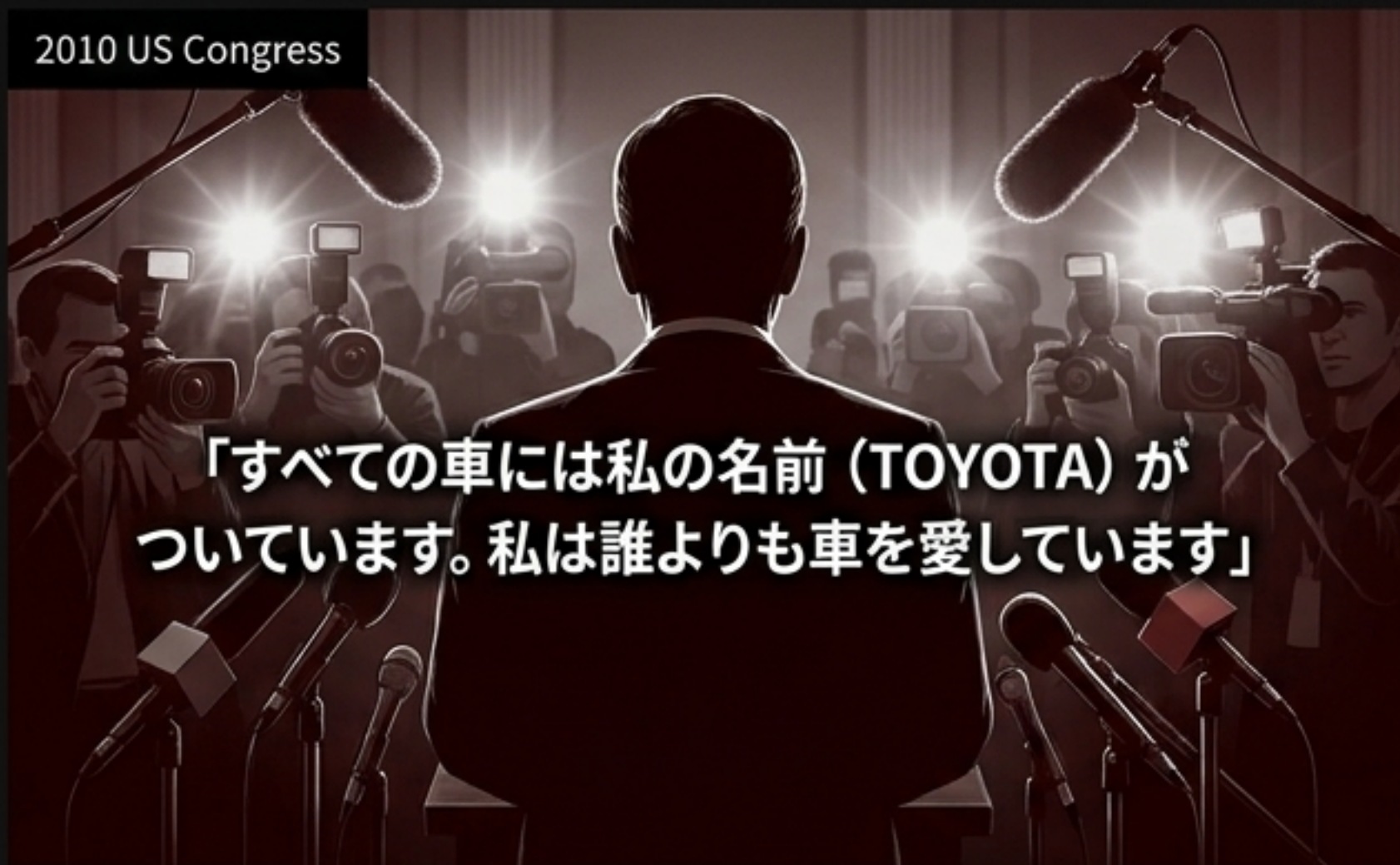


EV一本化への拙速な移行は、日本の全就労人口の1割(550万人)が築き上げた熟練の技術と生活基盤を一夜にして切断する。

[\[YouTubeで詳細を見る \]](#)

ドン底で磨かれた「車屋」のプライド

2010 US Congress



「すべての車には私の名前（TOYOTA）がついています。私は誰よりも車を愛しています」

'2010 US Congress'

The Factory Floor



公聴会后、現場の工員たちの前で流した涙。

'The Factory Floor'

儲けや株価を追うマネーゲームではなく、現場で汗を流す仲間と「お客様の生活」を守り抜く。
この猛省と覚悟が、流行に流されない強靱な意志を生んだ。

執念の血統「プリウス」と、欧米の策略



1997年

49日間、1ミリも動かなかった鉄の塊。爆発を繰り返したIGBT（パワー半導体）を乗り越え、世界初の量産ハイブリッドを発売。

累計販売 **1000万** 台突破

CO2削減量
7,700万トン以上

他国が「言葉」で環境を語る中、「手」を使って地球を守ってきた。



2019年、トヨタは2万3700件の特許を無償開放。しかし欧州は「日本の技術の借り物」というプライドからこれを拒否。ディーゼルで敗北した後、無理筋な「EV一本化」へと逃げ込んだ。

[▶ \[YouTubeで詳細を見る\]](#)

比較マトリクス：脱炭素へのアプローチ

	[EV専業 (EV-Only)]	[マルチパスウェイ (Multi-Pathway)]
高度国	エンジンを排除する	炭素を排除する
発能国度	インフラが整った富裕国限定	新興国・寒冷地を含む全世界
鉱物資源	甚大 (HEVの約6倍の鉱物資源・地下水枯渇)	最適化 (限られた資源をHEV/PHEVに広く分散)
数的	既存サプライチェーンの破壊	550万人の雇用と技術を移行・保護
価値	HEV特許網の回避と政治的リセット	現実世界での継続的かつ確実なCO2削減

「炭素の借金」の方程式 (ライフサイクルCO₂の真実)

$$E_{total} = E_{manufacture} + E_{drive} \times P_{grid}$$

クリーン電力の国



火力発電に依存する国/地域



製造 ($E_{manufacture}$)
初期の巨大な炭素の借金

✗ 借金が減らない

IEA (国際エネルギー機関)
も認める事実:

火力発電の比率が高い地域
では、製造時の環境負荷が
少ない高効率なハイブリッ
ド車 (HEV) の方が、地球全
体でのCO₂排出量が少なく
なる。



[YouTubeで詳細を見る]

露出した「EV一本化」の不都合な現実



物理の限界（2024年1月 米シカゴ）

極寒の寒波により、EVの航続距離は約4割激減。充電に2時間以上を要し、急速充電ステーションは「動けなくなったEVの墓場」と化した。ガソリン車なら5分で解決する現実。



資源と人権の限界

従来の6倍の鉱物を要求する巨大バッテリー。南米の地下水枯渇や、コンゴでの劣悪な児童労働によるコバルト採掘。クリーンな車の裏側で、地球のどこかが汚染されている。



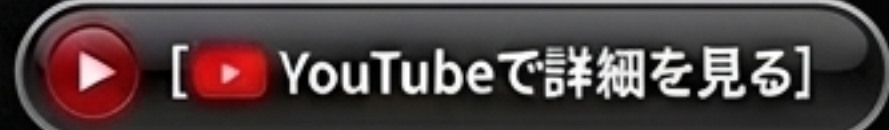
[YouTubeで詳細を見る]

2024年 ドミノ倒しの掌返し（歴史の答え合わせ）



- Apple：10年・巨額資金を投じた「Apple Car」開発を完全中止。
- Mercedes-Benz：「2030年完全EV化」公約を撤回。
- Volkswagen (VW)：EV販売が7割減。87年間で初の「ドイツ国内工場閉鎖」を検討。
- Ford / GM：投資延期、数千億円規模の損失、完全EV化目標の撤回。
- EU委員会：2035年エンジン車実質禁止を見直し、ハイブリッド/合成燃料の存続を検討。

補助金というドーピングが切れた瞬間、
市場は「生活の現実」で答えを出した。



数字が証明した完全なる勝利

[5兆3529億円]

2024年3月期 営業利益。日本企業として史上初の5兆円突破。

[47%]

EV先進国アメリカでの電動車販売比率（その大半がHEV）。

[+\$5,000]

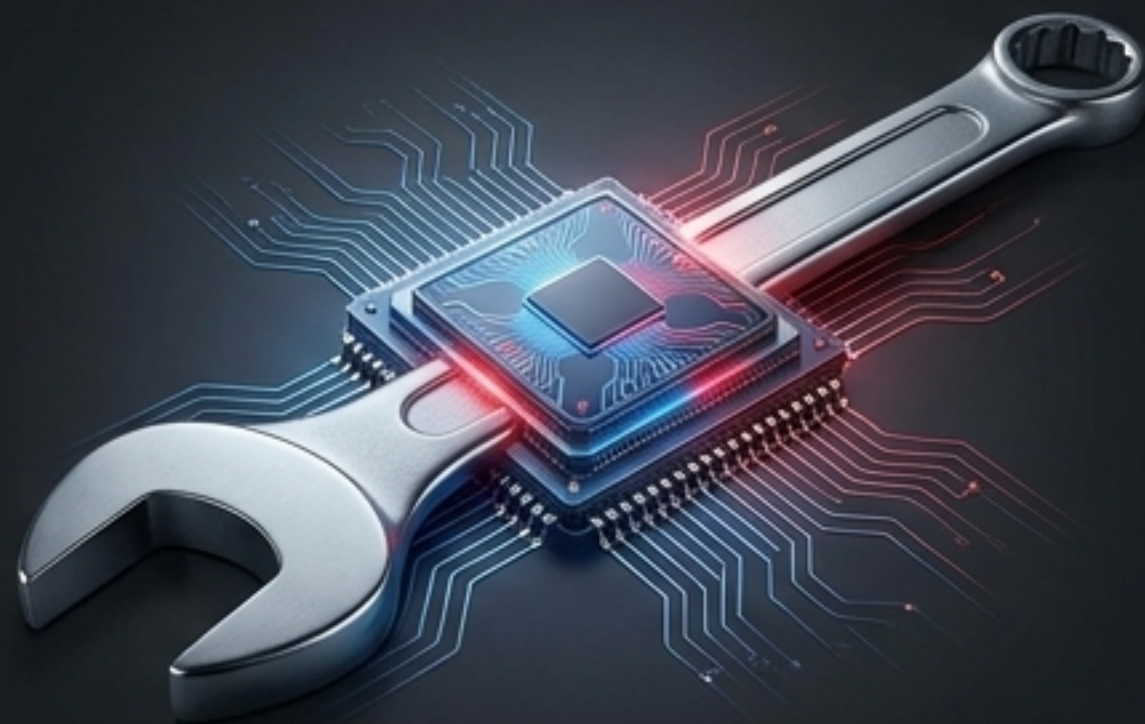
カリフォルニアでの異常現象：新車より中古のRAV4ハイブリッドの方が約75万円も高く取引される事態。

“ 大手投資銀行アナリスト：「私はトヨタに謝罪しなければならない。
ハイブリッドの衰退を予測していた私たちが間違っていた」

 [\[▶ YouTubeで詳細を見る\]](#)

結論：「正しさ」とは大声のプロパガンダではない

机上の空論、
政治的なスローガン、
補助金による一過性のブーム。



寒風吹きすさぶ路上で
確実に動き出し、人を温め、
無事に家に送り届ける**堅牢さ**。

「やっと、現実を見ていただけたんだなと思っています。私自身はどこまで行っても『車屋』です。石にかじりついてでも、日本のモノづくりを守りたかった。」

真のサステナビリティとは、環境目標と「人間の生活・現実」を完全に一致させることである。

[\[YouTubeで詳細を見る\]](#)

世界最下位からの逆転劇。その「全貌」を目撃せよ。

時代遅れと嘲笑された男が、いかにして550万人の生活を守り、世界を覆したのか？
AI時代にこそ求められる「泥臭い現実直視」と「モノづくり精神」のすべてがここにある。



本編動画を視聴する (YouTube)

PHOENIX愛知 広報担当 翔太による完全解説レポート